

川内川等河川の外水氾らんによる家屋の浸水被害を解消します！

～ 河川激甚災害対策特別緊急事業（激特事業）～

＜今回の災害の特徴＞

★既往最高の出水に見舞われた川内川流域は甚大な被害が発生！

平成18年7月豪雨により薩摩地方北部では、総雨量1,165mm（西ノ野雨量観測所：7月19～23日）に及ぶ記録的な豪雨となり、川内川の上流から下流に至る流域の3市3町（薩摩川内市、さつま町、大口市、菱刈町、湧水町、えびの市）の広域にわたって浸水家屋2,347戸に及ぶ甚大な被害が発生しました。

＜川内川激特事業の特徴＞

★九州地方では過去最大の事業規模の激特事業を採択！採択延長は全国歴代2位！

国土交通省では再度災害防止を図るために、国が管理する川内川をはじめ鹿児島県及び宮崎県が管理する支川を含めて川内川流域を河川激甚災害対策特別緊急事業（激特事業）として採択することとしました。なお、今回の事業規模は全体事業費356億円で九州地方では過去最大規模、採択延長は川内川本川約62kmで全国歴代2位です。

★概ね5年間の激特事業により、外水氾らんによる家屋浸水被害を解消！

激特事業により今年から概ね5ヶ年間で今回の豪雨に対して、川内川等の外水氾らん（河川からの溢水や逆流による氾らん）をなくし、約1500戸の家屋の浸水被害を解消します。

★激特事業のハード対策とあわせ、ソフト対策による災害に強い地域づくりを支援！

被害軽減のためのソフト対策として、地方自治体による土地利用規制等による防災・減災対策の推進に向けた協議会を設置するなど、地域と連携した地域づくりを推進します。

具体的には地方自治体が災害危険区域の設定、ハザードマップの作成等を行います。

★激特事業とあわせ鶴田ダム洪水調節機能の強化など鶴田ダム再開発事業化要求

＜激特事業の概要＞

★各地域の被害形態や土地利用に応じた効果的な対策を実施！

【薩摩川内市域】

- ・土地利用に応じた治水方式（築堤・輪中堤・家屋嵩上げ）で早期効果を発現

【さつま町域】

- ・浸水深約 3 m に及ぶ虎居地区の壊滅的被害を、湾曲部大規模ショートカット（しごめ 推込分水路）と河道掘削、築堤により解消
- ・その他の地区は土地利用に応じた治水方式で早期効果を発現

【大口市域】

- ・川内川の水位を大幅に低下させるため、そぎ 曾木の滝分水路に着手
- ・羽月川等の地区は土地利用に応じた治水方式で早期効果を発現

【菱刈町域】

- ・洪水が逆流し、家屋・田畑に多大な被害を及ぼした川間川に堤防を新設

【湧水町域】

- ・中枢機能が麻痺した湧水町の浸水被害解消のため、ながやま 永山狭窄部の掘削を実施

【えびの市域】

- ・逆流により浸水した内堅・水流地区を守るため、いなりがわ 稻荷川に堤防を新設
- ・逆流防止のため西境川合流点付近に、堤防及び水門を新設

参考)

■激特事業の概要

●事業区間及び事業内容

【九州地整】

- ・川内川本川 せんたいがわほんせん 6 2. 3 k m 永山狭窄部開削、ながやま 曾木の滝分水路、しごめ 推込分水路、河道掘削、築堤、輪中堤、宅地嵩上げ、水門等
- ・支川樋渡川 しせんひわたしがわ 1. 0 k m 築堤
- ・支川羽月川 しせんはつきがわ 6. 1 k m 河道掘削、築堤、輪中堤等
- ・支川川間川 しせんかわまがわ 1. 2 k m 築堤（左岸）
- ・支川西境川 しせんにしきかがわ 合流点部分 築堤、水門

【鹿児島県】

- ・支川久富木川 しせんくふきがわ 0. 5 k m 築堤等
- ・支川夜星川 しせんやせいがわ 0. 8 k m 築堤等
- ・支川白木川 しせんしらきがわ 0. 6 k m 河道掘削、築堤等

【宮崎県】

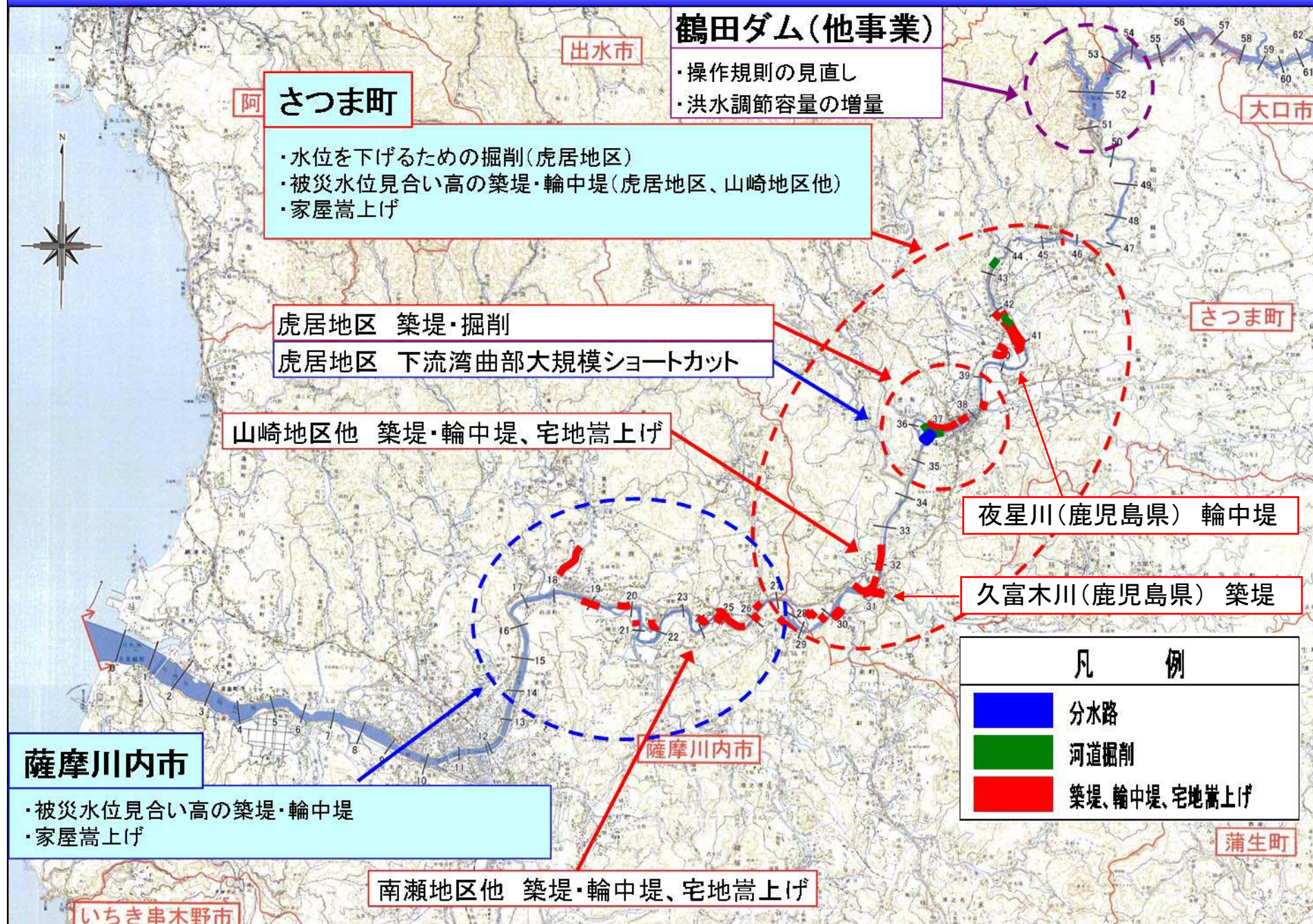
- ・支川稻荷川 しせんいなりがわ 0. 4 k m 輪中堤等

●事業期間 平成 1 8 年度～平成 2 2 年度の 5 カ年間

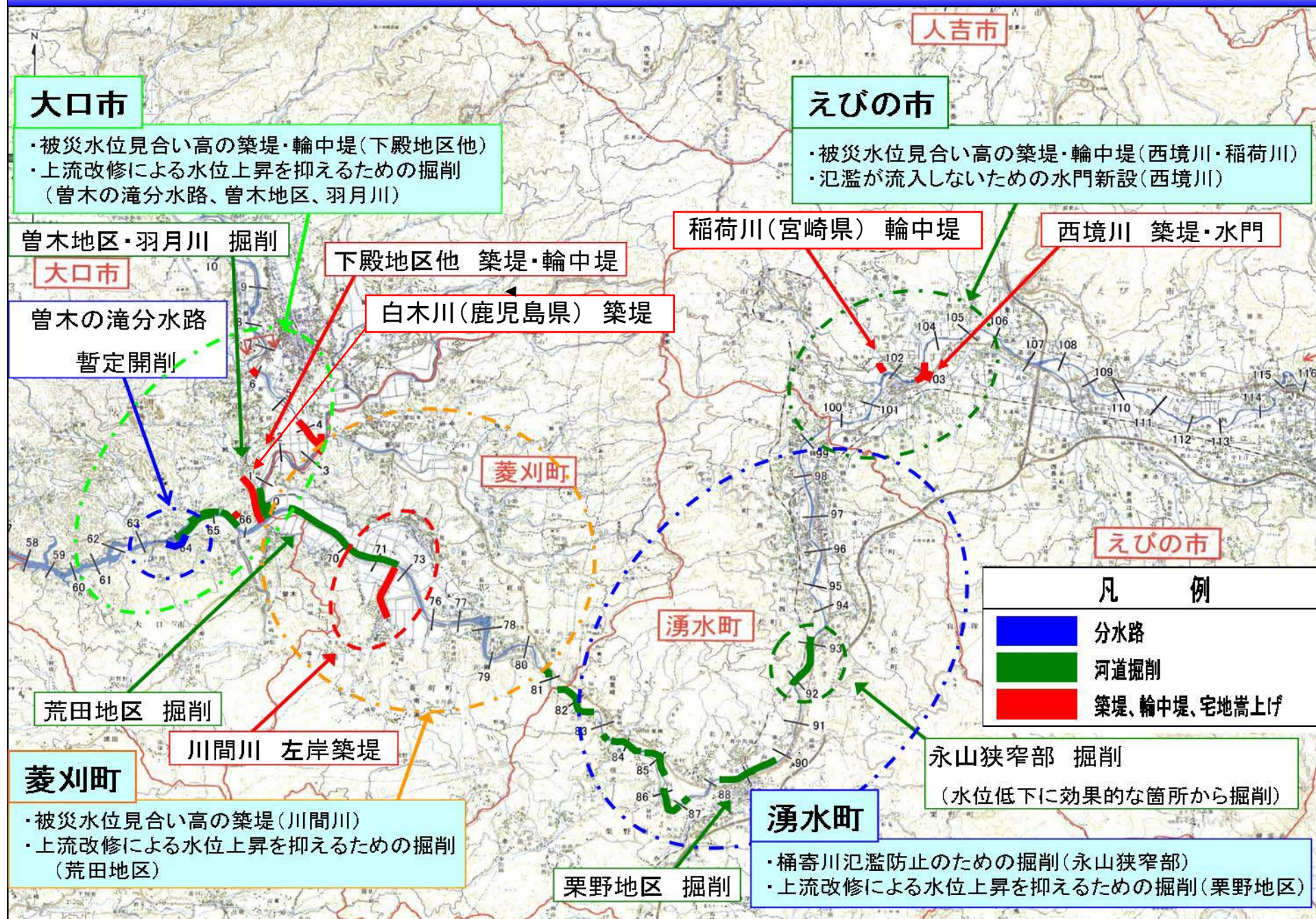
●採択事業費 3 5 6 億円

（九州地整 3 3 1 億円 鹿児島県 1 9 億円 宮崎県 6 億円）

激特事業実施箇所と整備内容(川内川下流部)



激特事業実施箇所と整備内容(川内川上流部)



激特事業実施箇所と整備内容(ソフト対策)

ソフト対策

■災害に強い地域づくりの支援

- ・被害軽減のための具体的方策や地域との連携などにより、災害に強い地域づくりを推進

- ①地方自治体による土地利用規制等による防災・減災対策の推進
- ②洪水ハザードマップの整備と避難場所等の再検討の推進
- ③危険箇所等における地域住民等への直接情報提供の検討（情報板、鶴田ダム情報との連携等）等

■水害時における危機管理体制の強化

- ・迅速に : 水防警報、洪水予報等の情報を各地方自治体へ直接伝達
- ・正確に : 各地方自治体と防災ネットワークにより直接接続し、河川情報、画像情報を共有
- ・分かりやすく : 河川情報板等による分かりやすい防災情報（地域防災情報）の提供、マスコミ（NHK、地元テレビ局等）への画像情報等の提供

■ハザードマップ作成の支援

- ・災害情報協議会等を活用し、自治体によるハザードマップ作成の支援を強化

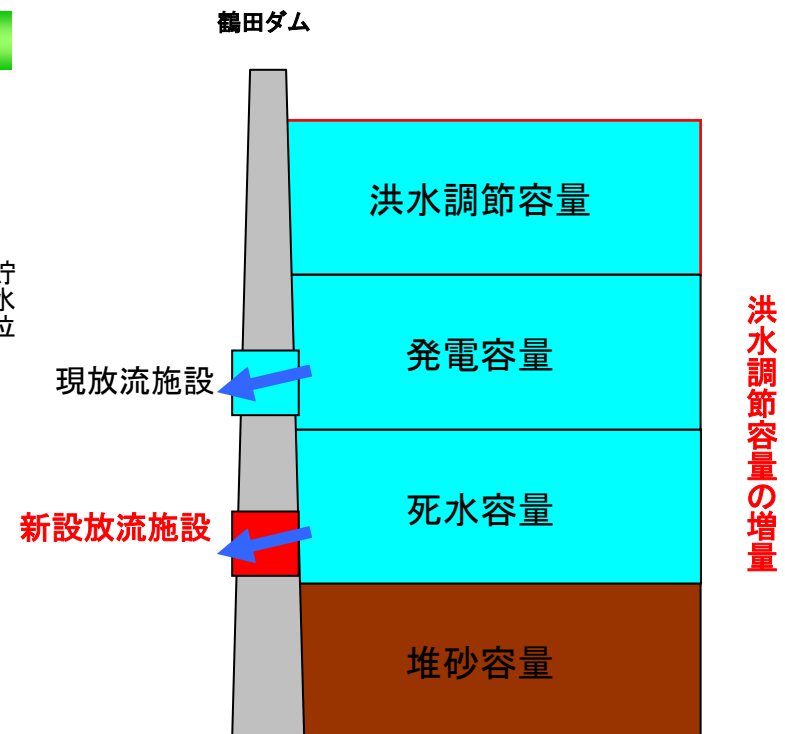
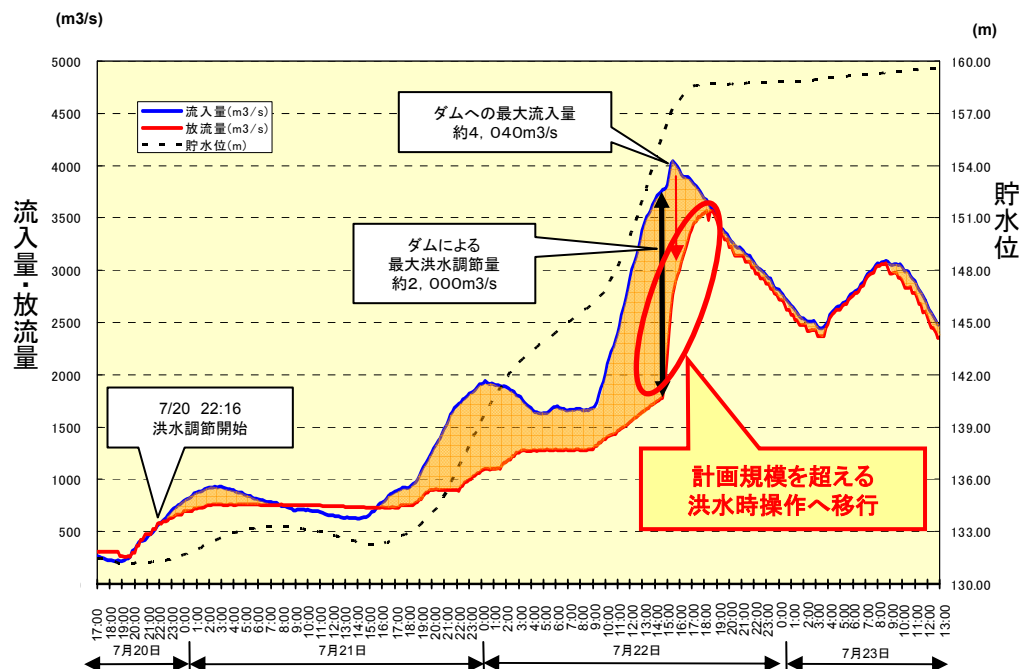
鶴田ダムの洪水調節機能強化

■ 平成18年7月出水に鑑み、川内川の治水安全度の向上を緊急的に図るため、鶴田ダムの洪水調節機能の強化等を実施

＜対策の概要＞

- 洪水調節容量の増量、放流施設の増設等、ダムの再開発
- 操作規則の見直し 等

平成18年7月19日～23日洪水における鶴田ダムの洪水調節

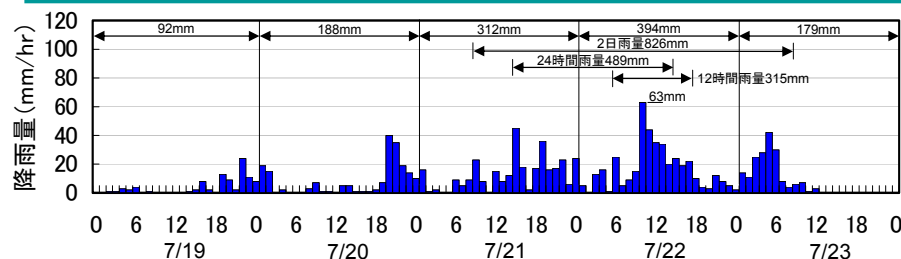


(参考)降雨、水位の状況

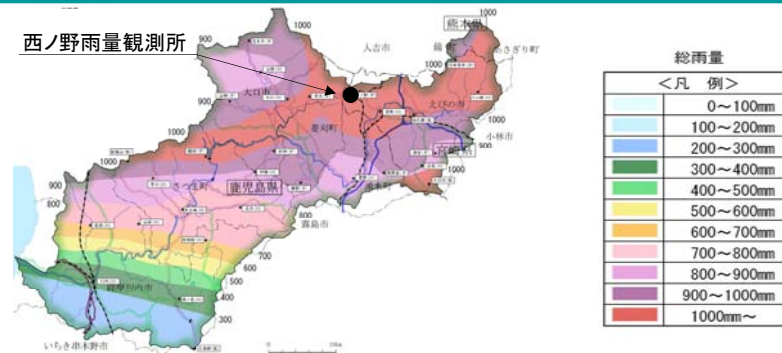
15水位観測所中11水位観測所で観測史上、最高水位を記録

- 川内川流域では、7月19日から7月23日にかけて梅雨前線の活動が活発化し、薩摩地方北部を中心に記録的な大雨をもたらした。この豪雨により全水位観測所15箇所のうち11箇所で見測史上最高水位を観測し、川内川本支川において136箇所の浸水被害等が発生しました。
- 川内川全域の3市3町（薩摩川内市、さつま町、大口市、菱刈町、湧水町、えびの市）では、浸水面積2,777ha、浸水家屋2,347戸に達する甚大な被害が発生しました。

西ノ野雨量観測所での雨量グラフ

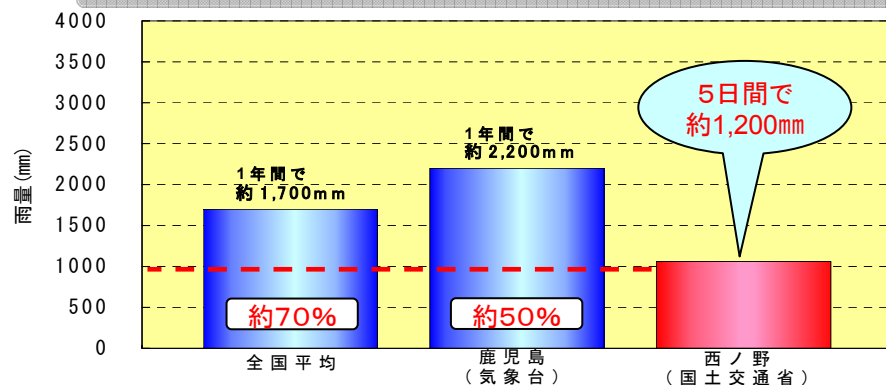


平成18年7月18日17:00~7月23日13:00の総雨量



年総雨量と今回出水総雨量（西ノ野雨量観測所）との比較

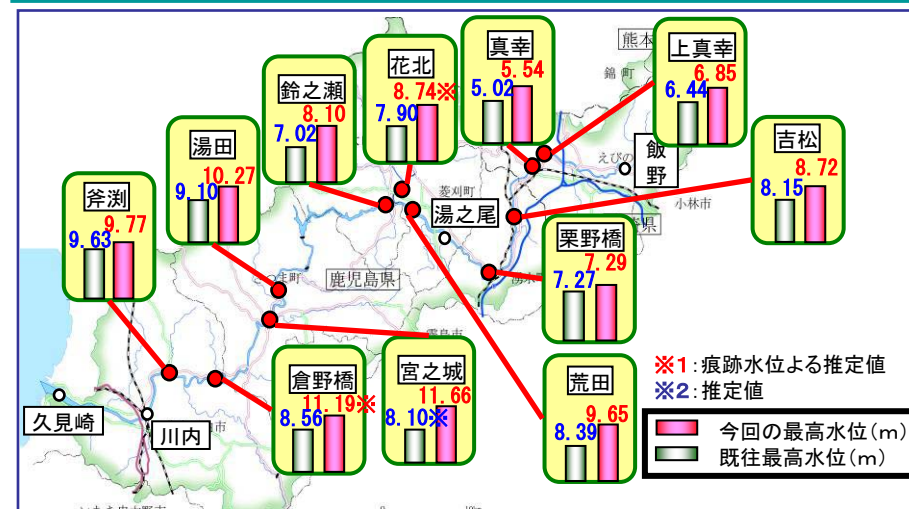
- 5日間で鹿児島市（气象台）の年総雨量の約50%、全国平均の年総雨量の70%の雨を観測



※鹿児島気象台の年総雨量
1996~2005年の平均

※全国平均（出典：（財）水資源協会「日本の水2005」）
1971~2000年の平均

既往最高水位を超えた観測所位置図



(参考)被害の状況

川内川本支川において激甚な浸水被害が発生

